



# OPJ 2016 に行こう

OPJ 2016 プログラム委員長  
 芦原 聡 (東京大学生産技術研究所)

開催まで2か月を切った日本光学会年次学術講演会 OPJ 2016. 今年にはどんな企画や講演が予定されているのでしょうか. その見どころを紹介します.

本号巻頭にクリーム色の紙で掲載されている6~8ページのタイムテーブルをご覧ください. OPJ固有のプログラムに加え, 今年はOSA創立100周年を記念してOSJ-OSAジョイントシンポジウムを催します. そのため, 会期を1日増やし, 10月30日~11月2日の計4日間としました. 懇親会も2回催します. なお, OPJ 2016の参加登録をすれば, このジョイントシンポジウムを含め, すべてのセッションを自由に行き来できます.

図1にOPJ 2016の講演数を示します. 会場が足りなくなるほど多くの企画と講演が集まりました.

**基調講演** 今年の基調講演は美濃島薫先生(電通大)にお願いしました. 目下ERATOプロジェクトとしても推進中の光周波数コムに関するご講演です. 光周波数コムは, 電場波形が精密に制御・安定化された, キレイな光です. 最近では, その光源技術だけでなく, 距離・周波数標準, 光計測, 光情報処理などへ向けた応用研究が加速しています. 今後, 量子エレクトロニクス分野だけでなく, 光学分野でもますます重要なトピックになるでしょう.

**特別講演** OSA CEOのE. A. Rogan氏の講演は, 過去100年間に起こった光関連のイノベーションをOSAの歩み

とともに振り返る内容です. OSA PresidentのA. E. Willner氏は, 米国で進む産官学連携の取り組み“The U.S. National Photonics Initiative”について, EOS President-electのJ. Jahns氏は, 回折光学素子を用いた光波制御について, SPIE理事の鈴木章義氏は, 次世代光リソグラフィについて, それぞれご講演くださいます.

**OSJ-OSAジョイントシンポジウム** セッションは「プラズモニクス」と「デジタルフォトニクス」の2つ. 欧米, アジア, オセアニア, 日本国内から, 合わせて16名の著名招待講演者をお迎えします.

**シンポジウム・授与式** “Advanced light control and applications”と題する日韓台ジョイントシンポジウム, 「デジタルホログラフィーのバイオ応用」「偏光技術の可視化」「赤外ナノフォトニクス」「新画像システム・情報フォトニクス研究討論会」などの各研究グループ企画シンポジウム, 各賞の授与式・記念講演が予定されています.

このほか, 一般講演にも数多くの投稿が集まり, 全体として, 光学分野のホットな学術トピック, 最先端技術, そして産業界の動向を知ることのできる, 充実した内容となりました. いま一度, 巻頭のプログラムをごらんいただき, 「OPJ 2016に行こう」と心を固めていただければ幸いです. 事前参加登録の締切は9月30日です. それでは, OPJ 2016でお会いしましょう.

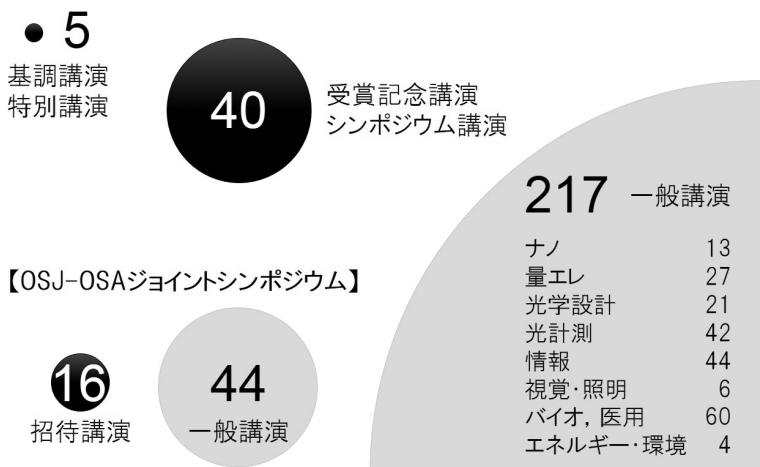


図1 OPJ2016で予定されている講演の数.



図2 昨年のOPJでの一コマ.